

市民意見への対応について

1. 追加すべき「奈良らしい眺望景観」

16件の候補があげられた。「眺望景観のとらえ方」及び「奈良らしい眺望景観」の選定の考え方への適合状況に基づき、以下の2件を奈良らしい眺望景観として追加することとした。

①一条通から転害門や若草山等の山並みへの眺望

②羅城門橋から大極殿・朱雀門への眺望

No	視点場→視対象	眺望景観のとらえ方	奈良らしい眺望景観のとらえ方	対応
①	一条通 →転害門、若草山等	適合	適合	選定
②	羅城門橋 →朱雀門、大極殿	適合	適合	選定
③	朱雀大路 →朱雀門、大極殿			No. 25(及び上記)と集約
④	R24 高架区間 →平城京、若草山	適合	視点場が「心で感じる景観の特性」「情報としての景観の特性」に乏しい。	不選定
⑤	競輪場付近(周囲の集落) →秋篠寺	「眺望景観の空間特性／可視性」に適合しない		不選定
⑥	飛火野 →大樹の冠藤、若草山	「眺望景観の空間特性／可視性」に適合しない		不選定
⑦	白毫寺町 →宅春日神社広場	「眺望景観の空間特性／距離」に適合しない。		不選定
⑧	ならファミリー屋上 →平城宮跡、若草山、東大寺大仏殿他	「眺望景観へのアクセシビリティ／視点場」に適合しない。		不選定
⑨	名阪国道福住IC付近 →大和平野、生駒山	視対象が奈良市街地ではない。「眺望景観の歴史性」に適合しない。		不選定
⑩	瑜伽神社 →奈良市街地	「視点場／公共性」に適合しない。		不選定
⑪	春日大社表参道バス停付近 →春日・飛火野一帯の芝生	「眺望景観の空間特性／距離」に適合しない。		不選定
⑫	春日山原始林の中 →春日山原始林	「眺望景観の空間特性／距離」に適合しない。		不選定
⑬	飛鳥中学校 →生駒山、夕日	「眺望景観へのアクセシビリティ／視点場」に適合しない。		不選定
⑭	佐紀の村落への眺望	奈良の独自性が弱い。「眺望景観の歴史性」に適合しない。		不選定
⑮	大柳生から柳生への道からの眺望	視対象が明確でない		不選定
⑯	大淵池池畔 →学園前住宅地、松伯美術館	適合	視点場が「心で感じる景観の特性」「情報としての景観の特性」に乏しい。	不選定

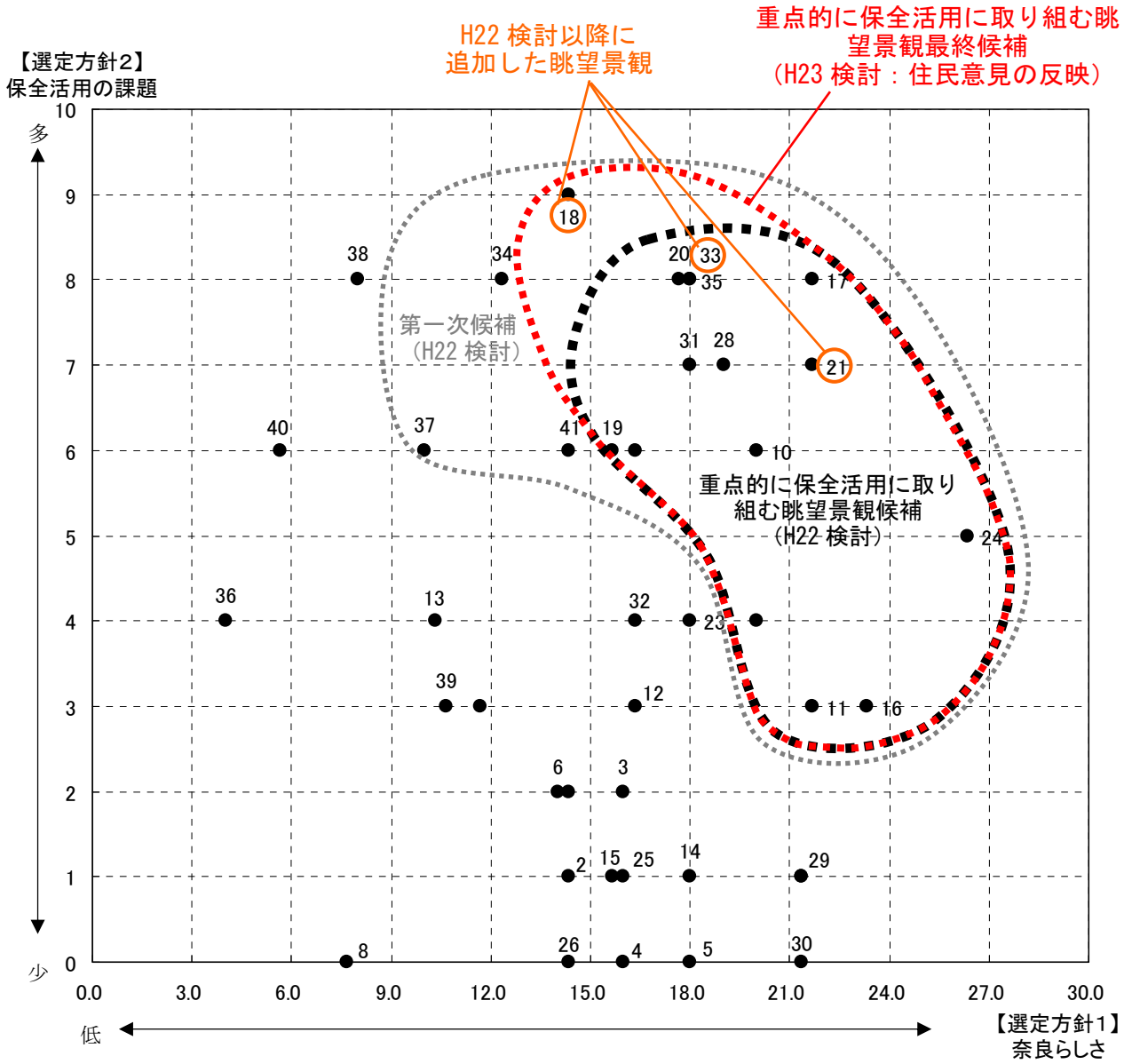
<参考>

記号	視点場→視対象	眺望景観のとらえ方							奈良らしい眺望景観のとらえ方				対応	
		特定の視対象を望むことができる視点場と眺望空間から構成される	空間特性		アクセス性			歴史性		エリア	選定基準			
			距離	可視性	視角	視点場	時間	時代	歴史性		目に見える景観の特性	心で感じる景観の特性		情報としての景観の特性
①	一条通 →転害門 若草山	○	○	○	○	○	○	○	○	奈良盆地 エリア	○	○	○	選定
②	羅城門橋 →大極殿 朱雀門	○	○	○	○	○	○	○	○	奈良盆地 エリア	○	○	○	選定
③	朱雀大路 →大極殿 朱雀門	○	○	○	○	○	○	○	○	奈良盆地 エリア	○	○	○	No.25及び ②と集約
④	R24 高架区間 →平城京 若草山	○	○	○	○	○	○	○	○	奈良盆地 エリア	○	×	視点場が情報としての景観の特性に乏しく、今後の情報発信も期待できない	不選定
⑤	競輪場付近（周囲の集落） →秋篠寺	○	×	×	○	○	○	○	○	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑥	飛火野 →大樹の冠藤 若草山	○	×	×	○	○	○	○	○	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑦	白毫寺町 →宅春日神社広場	○	×	○	○	○	○	○	×	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑧	ならファミリー屋上 →平城宮跡 若草山 東大寺大仏殿他	○	○	○	○	○	×	○	○	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑨	名阪国道福住IC 付近 →大和平野 生駒山	○	○	○	○	○	○	○	×	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑩	瑜伽神社 →奈良市街地	○	○	○	○	○	○	○	○	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑪	春日大社表参道バス 停付近 →春日・飛火野一 帯の芝生	○	×	○	○	○	○	○	○	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑫	春日山原始林の中 →春日山原始林	○	×	○	○	○	○	○	○	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑬	飛鳥中学校 →生駒山 夕日	○	○	○	○	○	○	○	×	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑭	佐紀の村落への眺望	×	×	×	×	×	○	○	×	奈良盆地 エリア	/	/	/	不選定
⑮	大柳生から柳生への道からの眺望	×	×	×	×	○	×	×	×	東部山間地 エリア	/	/	/	不選定
⑯	大淵池池畔 →学園前住宅地 松伯美術館	○	○	○	○	○	○	○	○	西部丘陵地 エリア	○	×	地域の魅力的な景観としての重要性はあるが、今後情報化して発信していくほどの歴史文化的な背景等に乏しい	不選定

2. 追加すべき「重点的に保全活用に取り組む眺望景観」

26件の候補があげられた。既存の評価結果（候補12事例の抽出）及び、1の奈良らしい眺望景観への追加の検討を踏まえ、以下の眺望景観を重点的に保全活用に取り組む眺望景観に追加する。

記号	視点場→視対象	回答数	対応
A	近鉄奈良駅前（行基広場） →若草山、奈良公園、空	7	選定 (Iと併せて選定する)
B	飛火野 →大樹の冠藤、若草山	3	不選定 (奈良らしい眺望景観に追加しないため)
C	JR奈良駅前 →若草山	2	三条通からの一連の繋がりが重要であり、現行どおり三条通と一体として扱う
D	若草山一合目 →東大寺、興福寺、奈良公園、春日山、御蓋山	2	不選定 (既存の評価結果による)
E	若草山山頂 →奈良市街地	2	不選定 (既存の評価結果による)
F	東大寺二月堂 →奈良市街地	2	不選定 (既存の評価結果による)
G	東大寺二月堂裏参道 →東大寺二月堂	2	不選定 (既存の評価結果による)
H	高畑町付近 →土塀の家並みと山並み	2	No.10と集約して対応
I	大宮通り →若草山への眺望	2	Aと併せて選定する
J	近鉄奈良百貨店ならファミリー屋上 →平城京跡、大極殿、東大寺大仏殿（二月堂）、若草山、春日山等	2	不選定 (奈良らしい眺望景観に追加しないため)
K	大仏池池畔 →東大寺大仏殿	1	不選定 (既存の評価結果による)
L	正倉院池（大仏池）西端 →東大寺大仏殿、樹林	1	不選定 (既存の評価結果による)
M	知事公舎前道路 →依水園及び若草山	1	不選定 (既存の評価結果による)
N	朱雀大路 →大極殿、朱雀門	1	不選定 (既存の評価結果による)
O	一条通 →転害門、若草山等	1	選定
P	羅城門橋 →平城宮跡朱雀門への眺望	1	選定
Q	白毫寺町 →宅春日神社前の広場	1	不選定 (奈良らしい眺望景観に追加しないため)
R	東大寺大仏殿裏山のドライブウェイ →四季折々の東大寺大仏殿屋根、五重塔、大和平野、二上山、葛城山、金剛山	1	不選定 (既存の評価結果による)
S	水上池付近 →平城宮跡や若草山等	1	不選定 (既存の評価結果による)
T	歴史の道 →垂仁天皇陵への眺望	1	不選定 (既存の評価結果による)
U	競輪場付近 →秋篠寺	1	不選定 (奈良らしい眺望景観に追加しないため)
V	大湊池池畔 →学園前の住宅地、松伯美術館	1	不選定 (奈良らしい眺望景観に追加しないため)
W	大柳生から柳生への道からの眺望	1	不選定 (奈良らしい眺望景観に追加しないため)
X	月ヶ瀬地区 →月ヶ瀬梅林	1	不選定 (既存の評価結果による)
Y	市内各駅前からの眺望	1	不選定 (奈良らしい眺望景観に追加しないため)
Z	佐紀の村落の眺望	1	不選定 (奈良らしい眺望景観に追加しないため)



選定根拠 参考資料2：配点状況 更新版

番号	眺望景観の名称	重点的に保全活用に取り組む眺望景観の選定方針									重点的に保全活用 に取り組む眺望景観 候補
		選定方針1				選定方針2				選定方針3	
		目に見える 景観の特性	心で感じる 景観の特性	情報としての 景観の特性	合計	保全の課題	再生の課題	活用の課題	合計	住民活動など	
1	奈良県庁屋上広場から奈良市街地、山並み、社寺等への眺望	6.7	8.0	6.7	21.3	0	1	0	1	—	
2	大仏池池畔から東大寺大仏殿への眺望	3.3	6.0	5.0	14.3	0	1	0	1	—	
3	東大寺二月堂裏参道から東大寺二月堂への眺望	3.3	6.0	6.7	16.0	2	0	0	2	—	
4	東大寺二月堂から奈良市街地への眺望	3.3	6.0	6.7	16.0	0	0	0	0	—	
5	若草山から奈良市街地への眺望	3.3	8.0	6.7	18.0	0	0	0	0	—	
6	奈良奥山ドライブウェイ(雑司町区間)から東大寺大仏殿への眺望	3.3	4.0	6.7	14.0	0	0	2	2	—	
7	白毫寺から奈良市街地への眺望	3.3	6.0	5.0	14.3	2	0	0	2	—	
8	奈良奥山ドライブウェイ展望所から奈良盆地への眺望	0.0	6.0	1.7	7.7	0	0	0	0	—	
9	奈良町から興福寺五重塔への眺望	3.3	8.0	5.0	16.3	2	2	2	6	NPO法人さんが俵座、奈良町座など	●
10	奈良町から春日山等の山並みへの眺望	3.3	10.0	6.7	20.0	2	2	2	6	NPO法人さんが俵座、奈良町座など	●
11	荒池池畔から興福寺五重塔、御蓋山、春日山への眺望	3.3	10.0	8.3	21.7	2	0	1	3	—	●
12	知事公舎前道路から若草山への眺望	3.3	8.0	5.0	16.3	2	0	1	3	—	
13	東大寺戒壇院前道路から東大寺戒壇堂への眺望	3.3	2.0	5.0	10.3	2	1	1	4	—	
14	春日野園地及び浮雲園地から若草山、東大寺大仏殿・南大門への眺望	3.3	8.0	6.7	18.0	1	0	0	1	—	
15	鷺池池畔から浮見堂への眺望	6.7	4.0	5.0	15.7	0	0	1	1	—	
16	猿沢池池畔から興福寺五重塔・南円堂への眺望	6.7	10.0	6.7	23.3	2	1	0	3	—	●
17	JR奈良駅を含む三条通から春日大社一の鳥居、御蓋山、春日山への眺望	6.7	10.0	5.0	21.7	4	2	2	8	三条通地区地区計画	●
18	近鉄奈良駅前を含む大宮通りから若草山への眺望	3.3	6.0	5.0	14.3	6	2	1	9	大宮通り景観まちづくりの会	●
19	奈良阪(県道木津横田線)から東大寺大仏殿への眺望	6.7	4.0	5.0	15.7	3	2	1	6	—	●
20	西安の森、若草中学校付近から東大寺大仏殿、興福寺五重塔、若草山等の山並みへの眺望	6.7	6.0	5.0	17.7	4	2	2	8	—	●
21	一条通から転害門への眺望	6.7	10.0	5.0	21.7	2	2	3	7	—	●
22	大宮橋及び佐保川沿いから若草山への眺望	3.3	10.0	6.7	20.0	3	0	1	4	アドプトプログラムによる市民団体の活動	●
23	水上池池畔から若草山等の山並みへの眺望	3.3	8.0	6.7	18.0	2	1	1	4	—	
24	平城宮跡から東大寺大仏殿、若草山等の山並みへの眺望	10.0	8.0	8.3	26.3	4	1	0	5	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク	●
25	平城宮跡から大極殿、朱雀門への眺望	3.3	6.0	6.7	16.0	0	1	0	1	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク	
26	近鉄奈良線から大極殿、朱雀門への眺望	3.3	6.0	5.0	14.3	0	0	0	0	—	
27	歴史の道から垂仁天皇陵への眺望	0.0	10.0	1.7	11.7	3	0	0	3	—	
28	大池(勝間田池)池畔から薬師寺三重塔への眺望	6.7	4.0	8.3	19.0	4	1	2	7	—	●
29	薬師寺境内の眺望	3.3	8.0	10.0	21.3	1	0	0	1	—	
30	唐招提寺境内の眺望	3.3	8.0	10.0	21.3	0	0	0	0	—	
31	秋篠川堤防から薬師寺への眺望	3.3	8.0	6.7	18.0	4	2	1	7	秋篠川に桜を育む協議会	●
32	あやめ新橋から若草山等の山並みへの眺望	3.3	8.0	5.0	16.3	1	2	1	4	—	
33	羅城門橋から朱雀門、大極殿への眺望	3.3	8.0	6.7	18.0	4	2	2	8	羅城門跡公園清掃ボランティア	●
34	山村町から奈良市街地、若草山等の山並みへの眺望	3.3	4.0	5.0	12.3	5	1	2	8	—	
35	柳生の里の眺望	3.3	8.0	6.7	18.0	4	3	1	8	—	●
36	田原地区の茶畑、田園風景の眺望	0.0	4.0	0.0	4.0	2	1	1	4	田原総合研究所(TASK21)	
37	貝那木山城跡から都祁野盆地への眺望	0.0	10.0	0.0	10.0	4	1	1	6	—	
38	三陵墓古墳群史跡公園から都祁野盆地、都祁野岳への眺望	0.0	8.0	0.0	8.0	6	1	1	8	—	
39	月瀬梅林の眺望	3.3	4.0	3.3	10.7	3	0	0	3	—	
40	霊山寺境内から大和平野及び山並みへの眺望	0.0	4.0	1.7	5.7	4	0	2	6	—	
41	追分梅林から奈良市街地及び山並みへの眺望	3.3	6.0	5.0	14.3	2	1	3	6	—	

(※)選定方針1の総合評価:「目に見える景観の特性」「心で感じる景観の特性」「情報としての景観の特性」を均等に評価するため、各該当数を10点満点に換算し、その合計点数で評価した。

選定根拠 参考資料3：配点状況（概要） 更新版

番号	眺望景観の名称	重点的に保全活用に取り組む眺望景観の選定方針										総合評価 (重点的に保全活用に取り組む眺望景観候補)
		選定方針1				選定方針2				選定方針1及び2からの選定候補	選定方針3 住民活動など	
		目に見える景観の特性	心で感じる景観の特性	情報としての景観の特性	選定方針1の総評	保全の課題	再生の課題	活用の課題	選定方針2の総評			
1	奈良県庁屋上広場から奈良市街地、山並み、社寺等への眺望	A	A	B	A	C	B	C	C		—	
2	大仏池池畔から東大寺大仏殿への眺望	B	B	B	B	C	B	C	C		—	
3	東大寺二月堂裏参道から東大寺二月堂への眺望	B	B	B	B	B	C	C	B		—	
4	東大寺二月堂から奈良市街地への眺望	B	B	B	B	C	C	C	C		—	
5	若草山から奈良市街地への眺望	B	A	B	B	C	C	C	C		—	
6	奈良奥山ドライブウェイ(雑司町区間)から東大寺大仏殿への眺望	B	B	B	B	C	C	A	B		—	
7	白毫寺から奈良市街地への眺望	B	B	B	B	B	C	C	B		—	
8	奈良奥山ドライブウェイ展望所から奈良盆地への眺望	C	B	C	C	C	C	C	C		—	
9	奈良町から興福寺五重塔への眺望	B	A	B	B	B	A	A	A	第一次候補	NPO法人さんが俵座、奈良町座など	最終候補
10	奈良町から春日山等の山並みへの眺望	B	A	B	A	B	A	A	A	第一次候補	NPO法人さんが俵座、奈良町座など	最終候補
11	荒池池畔から興福寺五重塔、御蓋山、春日山への眺望	B	A	A	A	B	C	B	B	第一次候補	—	最終候補
12	知事公舎前道路から若草山への眺望	B	A	B	B	B	C	B	B		—	
13	東大寺戒壇院前道路から東大寺戒壇堂への眺望	B	C	B	B	B	B	B	B		—	
14	春日野園地及び浮雲園地から若草山、東大寺大仏殿・南大門への眺望	B	A	B	B	C	C	C	C		—	
15	鷺池池畔から浮見堂への眺望	A	B	B	B	C	C	B	C		—	
16	猿沢池池畔から興福寺五重塔・南円堂への眺望	A	A	A	A	B	B	C	B	第一次候補	—	最終候補
17	JR奈良駅を含む三条通から春日大社一の鳥居、御蓋山、春日山への眺望	A	A	B	A	A	A	A	A	第一次候補	三条通地区地区計画	最終候補
18	近鉄奈良駅前を含む大宮通りから若草山への眺望	B	B	B	B	A	A	B	A	第一次候補	大宮通り景観まちづくりの会	最終候補
19	奈良阪(県道木津横田線)から東大寺大仏殿への眺望	A	B	B	B	B	A	B	A	第一次候補	—	最終候補
20	西安の森、若草中学校付近から東大寺大仏殿、興福寺五重塔、若草山等の山並みへの眺望	A	B	B	B	A	A	A	A	第一次候補	—	最終候補
21	一条通から転害門への眺望	A	A	B	A	B	A	A	A	第一次候補	—	最終候補
22	大宮橋及び佐保川沿いから若草山への眺望	B	A	B	A	B	C	B	B	第一次候補	アドプトプログラムによる市民団体の活動	最終候補
23	水上池池畔から若草山等の山並みへの眺望	B	A	B	B	B	B	B	B		—	
24	平城宮跡から東大寺大仏殿、若草山等の山並みへの眺望	A	A	A	A	A	B	C	A	第一次候補	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク	最終候補
25	平城宮跡から大極殿、朱雀門への眺望	B	B	B	B	C	B	C	C		NPO法人平城宮跡サポートネットワーク	
26	近鉄奈良線から大極殿、朱雀門への眺望	B	B	B	B	C	C	C	C		—	
27	歴史の道から垂仁天皇陵への眺望	C	A	C	B	B	C	C	B		—	
28	大池(勝間田池)池畔から薬師寺三重塔への眺望	A	B	A	B	A	B	A	A	第一次候補	—	最終候補
29	薬師寺境内の眺望	B	A	A	A	C	C	C	C		—	
30	唐招提寺境内の眺望	B	A	A	A	C	C	C	C		—	
31	秋篠川堤防から薬師寺への眺望	B	A	B	B	A	A	B	A	第一次候補	秋篠川に桜を育む協議会	最終候補
32	あやめ新橋から若草山等の山並みへの眺望	B	A	B	B	C	A	B	B		—	
33	羅城門橋から朱雀門、大極殿への眺望	B	A	B	B	A	A	A	A	第一次候補	羅城門跡公園清掃ボランティア	最終候補
34	山村町から奈良市街地、若草山等の山並みへの眺望	B	B	B	B	A	B	A	A	第一次候補	—	
35	柳生の里の眺望	B	A	B	B	B	A	B	A	第一次候補	—	最終候補
36	田原地区の茶畑、田園風景の眺望	C	B	C	C	B	B	B	B		田原総合研究所(TASK21)	
37	貝那木山城跡から都祁野盆地への眺望	C	A	C	B	A	B	B	A	第一次候補	—	
38	三陵墓古墳群史跡公園から都祁野盆地、都祁野岳への眺望	C	A	C	C	A	B	B	A		—	
39	月瀬梅林の眺望	B	B	B	B	B	C	C	B		—	
40	霊山寺境内から大和平野及び山並みへの眺望	C	B	C	C	A	C	A	A		—	
41	追分梅林から奈良市街地及び山並みへの眺望	B	B	B	B	B	B	A	A	第一次候補	—	

A:2種以上含む
B:1種含む
C:含まない

A:4~5項目該当
B:2~3項目該当する
C:該当数1項目以下

A:5~6項目該当
B:2~4項目該当
C:該当数1項目以下

A:合計点数が20~30点
B:合計点数が10~19点
C:合計点数が0~9点

A:該当数5項目以上
B:2~4項目該当
C:該当数1項目以下

A:該当数2項目以上
B:該当数1項目
C:該当なし

A:該当数2項目以上
B:該当数1項目
C:該当なし

A:合計該当数が5項目以上
B:合計該当数が2~4項目
C:合計該当数が1項目以下

「A-B」「B-A」「A-A」の組み合わせとする

3. 計画素案に対する意見

「計画策定の目的」に対する意見

箇所	意見	対応
目的全体	3つの目的の関係性が重要ではないか。	・3つの目的の関係性を示す文章及び図を追加した。
	「奈良らしい眺望景観」という用語が出てくるので、ここで「奈良らしさ」を明記した方が良い。	・奈良らしさは、後述するため、ここでは、「奈良の歴史、文化、自然が織り成す眺望景観」とした。
	自然の豊かさを加えた方が良い。【市民講座】	・①に「自然」を追加し、「歴史的建造物と自然環境が一体となって形成する歴史的風土の保存」を追記した。
	世界遺産のバッファゾーンの保全の視点も加えるべき。【市民講座】	・①に「世界遺産のバッファゾーン及びハーモニーゾーンの保全」を追記した。
目的①	“様々な要素”を具体的に挙げるべき。	・「建造物や農地、山並みなどの視覚的にとらえられる要素に加え、音や香などの五感でとらえられる様々な要素」とした。
目的②	視点場の整備を記載すべき。	・「視点場やアクセス道の整備」を追記した。
目的③	末尾は、「市民のさらなる景観意識の向上やまちづくり活動の展開に資することを旨とする」くらいか。	・左記のとおり記載を修正した。
	活用面、観光面だけでなく、奈良らしい眺望景観の視対象で生活する人のメリット、暮らしの豊かさなどへの効果もあるので、より強調してはどうか。	・「世界遺産をはじめとした歴史的建造物や若草山や春日山等の山並みなどに囲まれ、世界に誇る眺望景観を日々の生活のなかで感じることのできる豊かな生活環境を保全することにより、…」と修正した。
	意図が分かり難い。分かり易く修正すべき。【市民講座】	・上記修正により対応。

「眺望景観のとらえ方」に対する意見

箇所	意見	対応
タイプ全般	タイプ分けのⅠ～ⅢとⅣ～Ⅵは重複するものであり、また、見えるものと視点場の位置が混在した分け方と思われる。	・タイプ分けを変更し、模式図や視点場・視対象の例を示し、分かり易く表現した。
	眺望景観のタイプの特徴は単純明快な表現が良い。	
	一般市民にはわかりにくい。	・まちづくりのなかで眺望景観を活かしていくことが大きな目的のひとつであるため、一定の広がりをもった視点場の設定を行うこととしており、現行の基準のとおりとする。民間の建築物内からの眺望景観は、対象としないこととする。
タイプⅤ	Ⅵの生活・生業型は全国どこの里山も同様であり、奈良固有の文化と捉えるのは難しい。	・「眺望景観のとらえ方」の類型のひとつとして設定するものであり、奈良らしい眺望景観の選定にあたっては、左記の視点も踏まえながら、奈良らしさが感じられるもののみを選定していくこととする。

「奈良らしい眺望景観のとらえ方」に対する意見

箇所	意見	対応
心 感 景 特 じ 観 で る の 性	「心で感じる景観」は、外国の方にとっては、馴染みのない分かり難い観光資源に思える。	・今後、具体的情報発信や案内板などの活用の際に、外国の方にも理解できるような打ち出し方を検討していく。
	「心で感じる景観」「情報としての景観」といった人々の主観と想像に委ねる部分は、教育や市民の活動を通じて行われることを強調した方がよい。	・眺望景観の保全活用の基本方針を再編し、基本方針2に「教育や市民活動との連携」を追加した。
西 丘 地 エ リ ア	「西部丘陵地エリア」に奈良らしい眺望景観があるのか。メリハリをつけても良い気がする。	・今後、候補があげられることを想定して、西部丘陵地エリアにも奈良らしい眺望景観があるという位置付けとしておく。
奈 ら し い 眺 望 景 観 の と ら え 方 全 般	眺望景観のとらえ方が目標と方針にどう結びついているのか、理解できない。	・眺望景観の保全活用の基本方針を再編し、基本方針1において五感で感じる眺望景観の視点を組み込んだ。また、エリアごとの眺望景観の保全活用方針の具体を示した。
	「五感で感じる」「体で感じる」という視点を追加すべき。【市民講座】	・奈良らしい眺望景観のとらえ方では、「心で感じる景観の特性」の説明において、五感で感じる眺望景観の視点を追加した。 ・眺望景観の保全活用の基本方針を再編し、基本方針1において五感で感じる眺望景観の視点を組み込んだ。
	健全者だけでなく、障害者も意識したものとすべき。【市民講座】	・眺望景観の保全活用の基本方針を再編し、基本方針1において五感で感じる眺望景観の視点を組み込んだ。
	眺望景観のとらえ方の6つの類型と「目に見える景観の特性」「心で感じる景観の特性」「情報としての景観の特性」の関係が分かり易く論じられると良い。【市民講座】	・奈良らしい眺望景観のとらえ方において、「眺望景観の6つの類型は、それぞれ各エリアの特徴に応じて、視点場や視対象、眺望空間の性格を変化させた形で表れることとなる。」を追記した。
	2ページの目的「②奈良らしい」は1ページの「自然の広がりゆとりが感じられ、歴史と文化の香る」を意味しているのであろうが、それを観光資源として活用するためには、「眺望景観のとらえ方」は一般論的である。特に視点場を、奈良公園（中世・近代）、平城宮跡（古代）、奈良町（近世）という時代を背負った、スポットではなく広がりを持ち、回遊性を有する、奈良に特徴的な場を中心に据えて考えるべき。奈良は「ぶらぶらするのがよい」。そのような場を多く有している。スポットごとの眺望景観では、奈良のよさは味わえない。視点場を中心としたまとめ方は自ずと限界性を持ち、奈良の良さを掻き消してしまいかねない。	・保全活用方策において、広がりのある視点場保全活用区域を設定し、特定のスポットではない、広がりや回遊性を考慮したものとしている。

「奈良らしい眺望景観の選定・カルテ」に対する意見

箇所	意見	対応
奈良らしい眺望景観の選定	視点場が奈良公園を中心に観光名所に偏向し、生活の場からみた景観保護が希薄となっている。歴史的建造物にこだわらず、現在の視点も必要ではないか。	・眺望景観の空間的な広がりや市民のコンセンサスの形成を考慮し、当面、市の施策として重点的・優先的に実施してくべき区域を選定している。今後、より身近な生活の場からみた眺望景観も何らかの形で対象にしていきたいと考えている。
	有名どころに集中して、掘り出し物がないと言う感じがする。分野など分類を分けて募集しても良いのではないか。	・今後、第2次選定の際に分野を区分した募集等も検討する。
眺望景観の名称	眺望景観の名称について、今後の施策展開も見据えて、眺望景観のポイントが分かり易い表現に修正すべき。【市民講座】	・視点場と視対象の分かり易さを重視した眺望景観の名称としている。保全活用の主旨は守るための視点、整えるための視点、活かすための視点で示している。
カルテの記載内容	各眺望景観について、具体的にどの建物の何を保全したいのか、どんな植物を保全したいのか等を示す必要があると思う。【市民講座】	・守るための視点、整えるための視点、活かすための視点でそれぞれ示している。
	「心に感じる景観」の具体の眺望景観の説明中に「歴史的逸話、伝承」が入っていないので加えた方が良い。	・カルテ全体の記載内容については、今後精査を行う。そのなかで、逸話や伝承などの追加も行うこととする。
写真	写真が眺望的な要素に欠ける。パノラマ的に示した方が良い。	・観光振興課から写真の提供を受けながら、今後差し替えを行う。また、市民からの写真の提供なども検討する。
	人が入った写真など、五感で感じられる景観の特徴がわかるような写真に差し替えるべき。【市民講座】	
	鷺池から浮見堂への眺望は、角度によっては、高円山の大文字焼きが見える。写真を差し替えた方が良い。	

「奈良らしい眺望景観の保全活用の目標と方針」に対する意見

箇所	意見	対応
保全活用目標と方針	片仮名が多すぎる。日本語を意識すべき。日本の文化を強調するなら、言葉は言霊である。	・計画全体について、可能な限り平仮名を使用するよう修正した。
	奈良には、若草山の山焼き、燈火会、観月祭など夜景にも有名なものがある。保全目標にはこれらの保全にも効果的な内容を併せて検討されたい。	・眺望景観の保全活用の基本方針を再編し、基本方針2に左記の内容を追加した。
	基本方針と3つのエリアとの関係、6つのタイプとの関係が分かり難い。エリアやタイプによらない全体的な方針はないのか。【市民講座】	・眺望景観の保全活用の基本方針を再編した。
	奈良盆地エリアについては、回遊できる場の中の多くのスポット、動線から、眺望を楽しめることが重要である。【市民講座】	・回遊するなかで眺望を楽しむという考え方のもとに、視点場保全活用区域を設定し、視点場に空間的な広がりをもたせている。
	奈良盆地エリアを保全活用の中心に置き、そこの関わりの中で活用を図っていくことが奈良ならではの計画となると考える。奈良盆地エリア以外の各エリアで、奈良盆地エリアと関わりをつけにくいものは、独立的なタイプと分けて捉えるべき。【市民講座】	・奈良盆地は中心的な位置付けではあるが、市内各地にある良好な眺望にも対応するため、3つのエリア区分をしている。基本的には“奈良盆地エリアと関わりを付け難いもの”が東部山間地、西部丘陵地に対応すると考えられる。

「重要眺望景観」に対する意見

箇所	意見	対応
名称	奈良らしい景観→P13 の抽出→重要眺望景観の流れをふまえると、「重要」という語句は違和感がある。	<ul style="list-style-type: none"> 「重要眺望景観」を「重点的に保全活用に取り組み眺望景観」に修正した。
重要眺望景観の選定	J R 奈良駅前からの眺望と近鉄奈良駅前の眺望、奈良を訪れた人が一番落胆をするこの2か所を候補地に入れるべき。	<ul style="list-style-type: none"> 近鉄奈良駅前は、「近鉄奈良駅前を含む大宮通りからの若草山等への眺望」として追加した。JR 奈良駅前は三条通からの眺望景観に含むものとして対応済である。
	重要眺望景観の選定の考え方2の根拠がよくわからない。(5, 7, 35, 33 の順に課題に課題が高くなっているが、みな個々の建物が景観に与える影響は小である点は同じであると思う。9より33の方が課題が高くなっているが、9の方が課題大であると思う。など)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の建築物の課題だけではなく、その他土地利用や屋外広告物、電線類、農地など想定される多様な課題をあげた上で、それらの数により評価しているためである。それらをもとに候補を抽出した上で、最終的には、今後のまちづくりへの展開の可能性や市民意見等をもとに選定していくこととしている。
	対象の範囲が広く、施策がぼやけるおそれのあるものと、ピンポイントの眺望が混ざっているのでは、整理した方が良くもしい。	<ul style="list-style-type: none"> 眺望景観の6類型において、概ね整理されている。その上で、その類型に応じて眺望景観の保全施策を整理した。
	重要眺望景観候補一覧によれば、番号20・21・23・27が、大仏殿・若草山の眺望である。この様な対象を中心とした捉え方での整理も考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> 現行の整理のままとする。(奈良盆地の広がりや多くの歴史文化遺産の集積のため、一つの視点場から複数の視対象を望むものも多く、類型が煩雑になるため。) 下記と同様、観光情報としての発信方法を工夫して対応する。
	眺望景観のリストアップで単体として見るのと合わせ、組体として紹介してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> 今後、観光振興のための情報発信の際に検討する。

「保全活用方策」に対する意見

箇所	意見	対応
保全活用方策全般	京都市の取り組みとの相違を明らかにし、奈良の独自性を打ち出すことが求められる。【市民講座】	<ul style="list-style-type: none"> 奈良らしい眺望景観において、奈良の眺望景観の特徴は明記しているため、敢えて京都市のみを引き合いに出して記載することは避ける。
観光振興と景観保全の両立	整備・開発・保全のバランスのとれた総合的な取り組みが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画との連携を図ることで対応する。
	商業施設も観光客の視点からは重要である。商業施設の外観をどうすべきか、いかに規制・指導していくべきか、戦略的に考えて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> 今後の検討課題とする。
	古都の景観を保全するための制度設定は重要であると思うが、同時に奈良のより一層の発展も重要な課題である。それらが両立し、奈良が盛り上がるよう、新規制度設定と共に現在の規制内容についての緩和等も併せて検討されることを期待する。	<ul style="list-style-type: none"> その他制度による規制の緩和については、今後、検討する。

保全方策	他都市と一線を画した思い切った政策を期待する。看板・ネオンの類は一切禁止にすべき。思い切った景観政策見直しでビル屋上看板、せり出し看板などは一切禁止できる強い施策をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> • すぐに規制をかけていくことは難しい。まずは、誘導方策を基本とした多くの地区を指定していくなかで、市民意識の醸成を図り、コンセンサスを形成していく段階的な取り組みを予定している。
	市街地の高層化による眺望景観の阻害を食い止めるとしても、果たして出来るかどうか疑問。こういう形の景観保全は、行政のアリバイ作りだと思う。ただでも難しいのに、景観保全のポイントを増やしすぎている。	
	眺望都市の視点、エコシティの視点、災害対策の視点からも40m高度地区は速やかに見直すべきである。行政が積極的に地下開発のイニシャティブを発動すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> • 高度地区の見直しは、都市計画部局等との調整も必要であるため、今後の検討課題とする。
	奈良の眺望は背景を見せることに意義があり、どこまで見せるか方向性を示す必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> • 見える見えないの議論ではないため、どこまで見せるかまでは示さないこととする。背景の保全の重要性は、個別に示している。
	計画素案は、風致地区規制と重複し、建設関係業の後退に繋がるので好ましくない。	<ul style="list-style-type: none"> • これまでの風致地区制度では十分に対応できなかった部分を改善していくためのものである。届出制度などの手続きについては今後検討していく。
	奈良らしい眺望景観を阻害する北の遊園地跡地は何とかならないか。	<ul style="list-style-type: none"> • 今後の検討課題とする。
活用方策	見られる対象のランクアップや視点場の環境整備が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> • それぞれの「重点的に保全活用に取り組む眺望景観」について、「視点場」「視点場保全活用区域」「眺望空間保全活用区域」「視対象」「視対象保全活用区域」の保全活用の方向性を示すこととする。
	景観を享受する環境の保全も重要である。車の進入制限等も検討してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> • 今後の検討課題とする。
	案内板の設置を望む。	<ul style="list-style-type: none"> • 活用方策のひとつとして、今後具体化していく。
	地元の人々が良いと思っている素敵な場所は意外と知られていないことが多い。観光客に向けて発信することを考えれば、その場所へのアクセス方法や、ある場所と場所を結んで、どのように市内を回るのかなど観光コースの提案などをすれば奈良らしさが県外の人々にも伝わりやすいのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> • 今後、第2次選定の際に分野を区分した募集等も検討し、地元の人のみが知るような眺望景観の抽出に努める。それらを本計画で扱うか、その他の方法で扱うかは検討する。 • アクセス道の整備や観光コースの提案については、基本方針のなかで示しており、今後、関係部局等と連携して具体化していく。
観光による繁栄が一つの目的にもなっているが、「点」である観光施設を「線」に広げることが大切である。その様な意味でも、町並みづくりが大切と思う。例えば、奈良公園～平城宮跡～唐招提寺～薬師寺～郡山城址～小泉古墳～法隆寺のラインを、一つの観光ルートとして、例えば「古の美知」などニックネームを付け、街道筋の景観改善を長期計画のもとに行うなども重要と思う。	<ul style="list-style-type: none"> • 観光コースの提案については、基本方針のなかで示しており、今後、関係部局等と連携して具体化していく。 	

	素案では学術的に理路整然と記されているが、景観を楽しむのは人間である。計画には「奈良らしい景観の楽しみ方」を表してはどうか。奈良市モデルをつくって欲しい。【市民講座】	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針2において、今後、「奈良らしい眺望景観の楽しみ方」をHP等で発信していくことを追記した。(本計画内では具体的内容までは記載しないこととする。)
市民意識の向上	規制だけでなく理想の形を見せてそれにみんなで向かいましょうという説明がほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 今後の情報発信の方法を工夫する。
	まずは罰則ではなく市民・県民・一人一人の認識を高める努力をして意識改革をすべき。	<ul style="list-style-type: none"> 今後も情報発信や定期的な講座、勉強会、シンポジウム等の開催による市民意識の啓発を行なう。
	奈良市民で共有できる奈良らしい景観についてもっとPRし、市民それぞれが考える機会を増やしていくことが大切である。	
制度	表彰制度を設けるべき。	<ul style="list-style-type: none"> 今後の検討課題とする。
	補助制度を設けるべき。	<ul style="list-style-type: none"> 今後の検討課題とする。

その他意見

箇所	意見	対応
計画策定の体制について	プロセスの公開も含め、情報公開は積極的にしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 今後の計画策定にあたって、検討しておく。
	奈良市眺望景観保全活用計画の策定にあたって外部委員会に検討を委託する場合は、公募または無作為抽出の市民委員を一定割合で参加させること。	
市民意見の反映について	実質的な参加者が少ない中では、多くの意見がでないと思う。これで公募した市民に計画案を説明して、意見を集約したということは許されないと思う。【市民講座】	<ul style="list-style-type: none"> アンケートやヒアリング、プレ講座、市民講座など、多様な方法で意見収集を行ってきた。今後もパブコメやシンポジウムの開催などにより情報発信や意見収集を行っていく予定である。